

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第45号

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会（総務課）
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所／〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL／06-6879-5021

最新の技術で鮮明な画像を 放射線部



IVRによる手術の様子。血管内の画像がモニターに映し出されている

患者さんの体に優しい治療として注目されているカテーテルを使った血管内治療も同部が中心になって行っています。インターベンショナルラジオロジー（IVR）と呼ばれるこの技術は、心筋梗塞の原因となる心臓の冠動脈の内側にできた血栓をカテーテルで削ったり、出産時の母体からの大量出血や大けがによる大量出血などに対して血管に詰め物をする

体にも優しいIVR
患者さんの体に優しい治療として注目されているカテーテルを使った血管内治療も同部が中心になって行っています。インターベンショナルラジオロジー（IVR）と呼ばれるこの技術は、心筋梗塞の原因となる心臓の冠動脈の内側にできた血栓をカテーテルで削ったり、出産時の母体からの大量出血や大けがによる大量出血などに対して血管に詰め物をする

同部には最新で高性能な装置が設置されており、患者さんの体への負担を最小にして鮮明な画像を撮影したり治療を行ったりすることができ、安心、安全で質の高い医療が可能になっています。

特に活躍しているのが、がんの正確な診断や確実な治療に不可欠になっているPET。PETは組織におけるブドウ糖などの代謝量を放射性薬剤によって測定、画像化することによってがんの診断や脳の機能解明に威力を発揮しています。同部では、全国の大学病院で初の高品質な放射性医薬品を検査目的に応じて合成できる施設が完成し、PET検査を応用できる領域が広がっています。

外科をはじめ多くの診療科がPETを利用しています。CTでは見つけることの難しい小さながんの転移を見つけることができ、手術範囲の決定や手術をするかどうかの判断に役立っています。また、術後の転移を調べたり、化学療法による効果を早期に判断できます。現在、PETは2台あり1日に15人前後の患者さんの検査をしています。がんの検査をしていくと、かなりの日数を待たなければならない状態であるため、近くもう1台の最新型のPETを設置する予定です。

適切な診断、治療を 素早くサポート

阪大病院放射線部では現代の医療には欠かせない画像診断やカテーテル治療に必要なPET（陽電子断層法）、CT（コンピュータ断層撮影）、MRI（磁気共鳴画像）など世界最高機能の画像診断装置を導入し、素早く適切な診断、治療をサポートする体制を整え、高度先進医療の提供に大きく貢献しています。



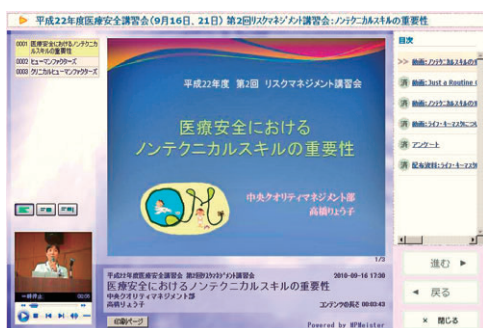
放射線部が担うPET装置の操作

また、放射線に対する不安を持つおられる患者さんには丁寧な検査や治療のメリットを説明して理解していただいています。さらに、患者さんの安全を確保するために造影剤の量や放射線の照射量については医療における放射線管理のプロである放射線物理士が適正に管理しています。放射線部の需要は増え続けている一方、患者さんの待ち時間を減らすことも努めなければなら

日本e-Learning大賞 厚生労働大臣賞 受賞



中央クオリティマネジメント部が 独自開発の医療安全学習システム



eラーニングで配信されている講習会の動画

阪大病院の医療の安全性と質を高めるためにさまざまな取り組みをしている中央クオリティマネジメント部が、独自開発したeラーニングシステムが第8回日本e-Learning大賞において厚生労働大臣賞を受賞しました。

同賞は新しい学習の可能性、学向上に役立つeラーニングのコンテンツの開発や実践に取り組む学校や病院などを表彰しています。今回は75件の応募中、4件に対して厚生労働大臣賞など4大臣賞が授与されました。

医療現場において安全教育は不可欠ですが、大学病院の特性として、研修医の受け入れや毎年の新人看護師の配置、中途採用などが多く、講習会に約2000人の職員全員が参加することは難しい状況です。

それを解決するために、阪大病院では2006年12月から職員がいつでも各部署で医療安全に関する学習ができるようにeラーニングを導入しました。

当初は市販のシステムで始めましたが、職員の部署間の異動が激しいために利用者の管理が難しくなったり、各部署の専門性に合わせた教材の作成や更新が簡単にできませんでした。また、全職員向けの講習会のビデオを視聴できないなど多くの課題がありました。

そこで、同部を中心

に患者さんの安全を確保するために造影剤の量や放射線の照射量については医療における放射線管理のプロである放射線物理士が適正に管理しています。放射線部の需要は増え続けている一方、患者さんの待ち時間を減らすことも努めなければなら

こどもたちも困っています！
敷地内全面禁煙にご協力をお願いします。

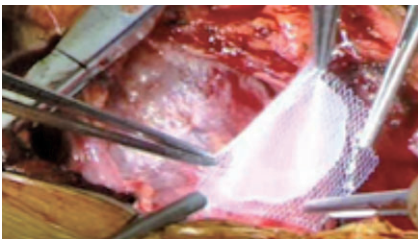


本院入院中のこどもたちの作品です。

心臓病治療で日本のけん引役

心臓血管外科

阪大病院の心臓血管外科は常に先進的な治療を開発、実践するとともに、心臓病の最終受け入れ病院としてどのような症状の患者さんも断らずに引き受け、助ける努力をすることをもットーにしています。



細胞シートを機能の弱った心臓に張り付ける



経カテーテル大動脈弁留置術の模式図(左)と人工大動脈弁

術を行いました。臓器移植法施行後、初の心臓移植や心肺同時移植、小児への心臓移植を行い、心臓移植は総計で35例になります。また、患者さんに負担の少ない心臓を動かしたままのバイパス手術や詰まった冠動脈を広げる器具(ステント)の開発及び臨床応用、超小型の

さらに、大動脈弁狭窄症に関して大腿部からカテーテルを使って人工大動脈弁を挿入する経カテーテル大動脈弁留置術を2009年に日本で初めて実施しました。現在、阪大病院が中心となって治療が行われています。従来の心臓を開いて弁を

挿入する手術の半分以下、約1時間～1時間半で治療が終わります。傷口が小さいために回復も早く患者さんの体に優しい手術でもあります。

どのような細胞、組織にも変化させることができるiPS細胞を利用した再生医療にも取り組み始めています。同科は常に最先端の技術を取り入れるとともに独自に術式を開発するなど質の高い安全な治療を追求しています。澤芳樹教授は「阪

大病院は高度先進医療を担う拠点病院として地域医療においても重要な存在で、当科も地域の心臓病治療ネットワークの要としての役割を果たすべく努力を続けています」と抱負を語っています。

乳がん手術の乳房を元通りに

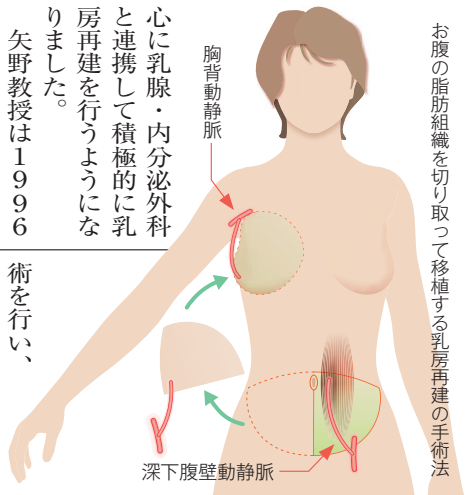
乳房再生医学寄附講座

乳がんは増え続けていますが、早期発見すれば乳房温存手術で乳房を残せるようになってきました。しかし、温存手術でも乳房に傷がついたり、形が歪んでしまったりすることがあります。阪大病院では女性にとって大切な乳房をほぼ元通りに再生する乳房再建治療を行い、全国から患者さんが受診しています。

乳がんは増え続けていますが、早期発見すれば乳房温存手術で乳房を残せるようになってきました。しかし、温存手術でも乳房に傷がついたり、形が歪んでしまったりすることがあります。阪大病院では女性にとって大切な乳房をほぼ元通りに再生する乳房再建治療を行い、全国から患者さんが受診しています。

きれいに乳房を残したい」という患者さんが圧倒的に多いのですが、これまではがんが治るのなら仕方ないとあきらめていた場合が多くありました。早期の乳がんでは乳房温存手術をしても、部分的に乳房を切除するために切除部分の小さな乳房をほぼ元通りに再生する乳房再建治療を行い、全国から患者さんが受診しています。

と温泉旅行に行った際に一緒に入れないという心理的な負担になってしまっています。医師の側でも乳がんの治療をするだけでなく、術後も患者さんが心理的に負担なく日常生活が送れるようにできるだけ乳房を元通りに再生する治療が行われるようになってきました。阪大病院でも医学部に乳房再生医学寄附講座が一昨年に誕生し、矢野健二教授を中



扱します。患者さんの負担を軽くするため、阪大病院では乳がん手術と同時に乳房再建を行っています。また、他施設で手術をした患者さんで、手術後時間がたついても再建は同じようにできます。再建の方法で一般的なのは背中の筋肉と脂肪組織を乳房の変形部分に移動させる手術法です。最近ではお腹の脂肪組織を血管が付いたまま切り取り、乳房の変形部分に移植する手術法も普及しつつあります。

また、乳房を全摘出した場合でも再建は可能で乳首や乳輪も再建したとはわからないほどになります。どうしても自分の組織で再建できない場合には、シリコン製の人工物を挿入しますが、乳房の形はほぼ元通りになります。

また、乳房を全摘出した場合でも再建は可能で乳首や乳輪も再建したとはわからないほどになります。どうしても自分の組織で再建できない場合には、シリコン製の人工物を挿入しますが、乳房の形はほぼ元通りになります。

栄養指導を6人の管理栄養士で行っています。病気や検査結果の説明、食事や食生活と検査数値の関連や、献立の立て方、いつ、何を、どれだけ食べればよいのか、そして何を避ければよいのかなど、栄養チェックをしながら個人の栄養状態・環境に応じた適切な栄養管理をサポートしています。日ごろのいろいろな思いを語られ、うつむき加減でドアを開けていた方が、笑みを浮かべてドアを閉めて帰られることも多々あり、私たちは皆さまの笑顔チェックが大切だと日々感じています。

栄養指導は
栄養
チェックと
笑顔
チェック



および過少は病気を招く一つの原因となります。今回は、病気を改善させる食生活をサポートする栄養指導について紹介します。

栄養管理室では、入院と外来の

市民公開フォーラムを開催しました — 頭頸部がん(のど・口・鼻) —

頭頸部のがんについてのフォーラムが昨年12月10日、116人が参加し開催されました。頭頸部のがんは部位別に見た場合、割合としては多くはないのですが、のど、口、鼻等いろんな部位が含まれており治療法も異なるため、病気の判断が重要になります。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科長の猪原秀典教授が外科的見地からの話をされ、放射線治療科の吉岡靖生准教授からは現在行われている放射線治療法についての解説がありました。また、歯学部附属病院の山上千夏歯科衛生士からは、がん治療にも口腔ケアが欠かせないことの説明がありました。「あまり見聞きしない部位のがんでしたが、とても興味深く話を聞けた」と参加者に好評でした。

クリスマスコンサートに桑名正博さん



少し早いクリスマスコンサートが12月16日にエントランスホールで開催されました。岡澤方子さんのピアノ演奏「オーバーザレインボー」で幕開け、続いてメゾソプラノの寺西恵美さんは岡澤さんが東日本大震災を憂い作詞作曲された「いのちの絆」とクリスマスソングを歌ってくださいました。また、2部との間にはセラピストの坂本真由美さんが、色によって気持ちが変わるといふ癒やしについてのお話をしてくださいました。そして最後に桑名正博さんがサプライズゲストとして出演、軽妙な会話で患者さんたちを笑わせながら、歌ってくださいました。最後は出演者と患者さんが一緒に「きよしこの夜」を合唱しました。



病院フォーラム 「病院と地域で支える『生きる力』」

保健医療福祉ネットワーク部主催としては節目となる第10回の病院フォーラムが昨年10月31日に開催されました。昨年は東日本大震災という未曾有の天災を通じて、生きることや絆の大切さを考え直す年でもありました。ネットワーク部の重要な業務である後方(退院)支援は地域との絆が非常に重要です。本フォーラムでは医療法人拓海会神経内科クリニックの藤田拓司先生をお招きし、患者・家族の「生きる力」を病院と地域がどのように支えていけばよいかをご講演いただきました。

また、訪問看護師、ケアマネジャー、さらには吹田市民病院の地域連携部部長に参加いただき、地域で退院後の患者さんを支える立場から提言をいただきました。院内外より職種を超えた約250人が参加され、医療従事者や市民の意識改革の重要性、さらに在宅医療に対する啓蒙・教育の重要性などを再認識される非常に有意義なフォーラムでした。

入退院センター

入退院玄関改修工事のおわびとお知らせ

●本院が平成5年に吹田キャンパスに移転してから18年が経過し、これまでも建物や設備の改修を順次行ってきましたが、長年の懸案であった入退院センターの改修を行っています。改修にあたっては患者さんやお見舞いの方々、各種業者の方々と教職員の皆さんの動線等を確保し、業務が停滞しないよう工夫しながら、可能な限り工期を短縮して行っておりますが、一時入退院玄関を閉鎖しての工事も行います。工事の詳細は掲示等にてご案内しております。2月初旬まで入退院センターを改修し、引き続き、3月下旬まで入退院玄関の工事を実施します。

栄養マネジメント部から

栄養は、身体をつくっている源であり、食事は栄養を食材に置き換えて食べやすくしたものです。例えば、人間は60兆個の細胞から構成されていますが、その細胞を作っているのがたんぱく質(アミノ酸)なのです。日ごろ、何気なく食べている肉や魚類、卵や大豆製品がアミノ酸補給の食材となります。また、その細胞の膜を作っているのが必須脂肪酸であり、体内で作ることができず体外から摂取すべき栄養素で、魚の油脂(DHA・EPA)がそれに値します。身体は食事(栄養)の適正な量を必要とし、過剰